

2021年3月13日  
教育関連学会連絡協議会シンポジウム  
「21世紀の教科教育とその新しい研究」

# 教育課程全体を通しての子どもの有能さの洗練

## ～教育心理学系研究者の視点から～

上智大学総合人間科学部教育学科 奈須正裕

# 教育心理学が明らかにしてきた事実と教科との関係

- ▶ すべての子どもは有能な(competent)学び手として生まれてくる
- ▶ 教育は、子どもの潜在的な有能さ(competencies)を顕在化させ、さらに洗練させる営み
  
- ▶ 認知の領域固有性、状況的学習論
- ▶ 領域固有知識の重視、知識が埋め込まれた状況の重視
- ▶ 汎用的な有能さの実相は、自在に活用の効く統合的な概念的知識
  
- ▶ 教科は、その認識論的な特質(見方・考え方)に応じて、子どもの潜在的な有能さを特定の部面や方向性に飛躍的に洗練させる可能性を持つ
- ▶ 「各教科等の特質に応じた見方・考え方」  
(a discipline-based epistemological approach)
  
- ▶ どのような部面や方向性に洗練させるのが望ましいか:規範的な問い
- ▶ それは、いつ、どのようにして可能なのか:事實的・技術的な問い

# なぜ、10か月に渡って 教科等別の部会が立ち上げられなかったのか

- ▶ 今回の改訂では、大臣諮問(2014年11月20日)から翌年の夏まで、教育課程企画特別部会だけで議論を進めた
- ▶ 未来の社会はどうなっていくそうか？
- ▶ 子どもはどのように学び育つか？
- ▶ どのような有能さの顕在化と洗練＝資質・能力を期待するのか？
- ▶ それは、どのような教育課程の構造によって実現できそうか？
- ▶ そのために、各教科等はどうあるべきか？
- ▶ 社会・子ども→教育課程→各教科等→各教科等の内容
- ▶ 学習指導要領総則「第2 教育課程の編成」が今回、新設された！
- ▶ まず各教科等があり、それらを束ねたもの≒教育課程だった可能性？

- ▶ 「これまでの学習指導要領は、知識や技能の**内容に沿って教科等ごとには体系化**されているが、今後はさらに、**教育課程全体で子供にどういった力を育むのか**という観点から、教科等を越えた視点を持ちつつ、それぞれの教科等を学ぶことによって**どういった力が身に付き、それが教育課程全体の中でどのような意義を持つのか**を整理し、**教育課程全体の構造を明らかにしていくことが重要**」…教育課程という視点の重視
- ▶ 「指導すべき個別の内容項目の検討に入る前に、まずは**学習する子供の視点に立ち**、教育課程全体や各教科等の学びを通じて**「何ができるようになるのか**」という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために**「何を学ぶのか**」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を**「どのように学ぶのか**」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある」…コンピテンシー・ベースの学力論
- ▶ 「こうした検討の方向性を底支えするのは、『**学ぶとはどのようなことか**』『**知識とは何か**』といった、『**学び**』や『**知識**』等に関する科学的な知見の蓄積である」…子どもの学習に関する科学的知見の重視

教育課程企画特別部会「論点整理」(2015年8月26日)

# 「見方・考え方」による「危険回避」

- ▶ 各教科等の存立や内容の組織化に際し、社会的な要求と子どもの発達・学習に関する事実を重視し、教育課程全体で検討することの要請
- ▶ 日本だけでなく、OECD諸国などにも見られる世界的な潮流
- ▶ 社会的効率主義、反知性主義に陥る危険性
  
- ▶ 資質・能力と各教科等の内容の間に、教科の本質＝「各教科等の特質に応じた見方・考え方」を介在させる
- ▶ 「資質・能力と学習指導要領等との構造を整理するには、学習指導要領を構成する各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、**教科等の本質的な意義**に立ち返って検討する必要がある」(教育課程企画特別部会「論点整理」2015年8月26日)
- ▶ 教科の系統＝日常の生活経験だけでは到達できない科学的認識の深まり
- ▶ 日常を超えた認識を提供する教科の学びが、日常を変革する力を持つ

# 子どもの発達・学習、社会の要求、教育課程との関連

- ▶ 教育課程全体で、どのような有能さの顕在化や洗練を目指すのか？
- ▶ 各教科は、教科相互の関係や教育課程の構造との関連において、どのような有能さの洗練に、どのような筋道で寄与する可能性を持つのか？
- ▶ とりわけ、どのような統合的な概念的知識が優先されるべきか？
- ▶ 非認知能力における貢献の可能性 cf. 鋭い道徳的感情(算数)
- ▶ 教科等横断的な学び(STEAM等)の取り扱い・・・新教科を創設すべきか  
or 教科等横断的な単元構成で十分対応可能か
  
- ▶ 教育への社会的要求をどのように監視し、議論し、着地点を見出すか？
- ▶ 各教科は、どのような世界の実現を目指し、それに対し、どのような貢献を果たし得るのか？
  
- ▶ 「見方・考え方」の見直し、突き合わせ、俯瞰的な整理
- ▶ 具体的な有能さを巡っての教科間での突き合わせや整理 cf. 話し合い

## 参考文献

- 東洋(著) 柏木恵子(編)『教育の心理学』有斐閣 1989年
- 安彦忠彦『「コンピテンシー・ベース」を超える授業づくり』図書文化社 2014年
- 北尾倫彦『「深い学び」の科学』図書文化社 2020年
- 齊藤一弥『数学的な授業を創る』東洋館出版社 2021年
- 重松鷹泰『子どものための教育』国土社 1990年
- 白井俊『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ書房 2021年
- ライル・M. スペンサー、シグネ・M. スペンサー(著) 梅津祐良、成田攻、横山哲夫(訳)『コンピテンシー・マネジメントの展開(完訳版)』生産性出版 2011年
- 奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社 2017年
- 奈須正裕『次代の学びを生み出す知恵とワザ』ぎょうせい 2020年
- 奈須正裕、江間史明(編著)『教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり』図書文化社 2015年
- 奈須正裕、久野弘幸、齊藤一弥(編著)『知識基盤社会を生き抜く子どもを育てる』ぎょうせい 2014年
- C・ファデル、M・ビアリック、B・トリリング(著) 岸学(監訳) 関口貴裕、細川太輔(編訳) 東京学芸大学次世代教育研究推進機構(訳)『21世紀の学習者と教育の4つの次元』北大路書房 2016年
- 福島真人(解説) ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウエンガー(著) 佐伯胖(訳)『状況に埋め込まれた学習ー正統的周辺参加』産業図書 1993年
- 米国学術推進会議(編著) 森敏昭、秋田喜代美(監訳)『授業を変える』北大路書房 2002年
- ロバート・W. ホワイト(著) 佐柳信男(訳)『モチベーション再考』新曜社 2015年
- 三宅芳雄、三宅なほみ『教育心理学概論』放送大学教育振興会 2014年